



発行：草枕ファン倶楽部  
〒861-5401  
熊本県玉名市天水町小天 735-1  
玉名市草枕交流館内  
tel:0968-82-4511 fax: 82-4512  
URL <http://www.kusamakura.jp>  
E-Mail [kusamakura@kusamakura.jp](mailto:kusamakura@kusamakura.jp)

「笠柑山の見晴らし」(岡本万次郎)「草枕絵巻」より



# 追悼

初代草枕交流館館長

## 中村青史先生

草枕交流館初代館長の中村青史先生が令和五年八月二十一日に亡くなられました。八九歳でした。ご家族で葬儀が行われ、草枕ファン倶楽部からは電報と献花を行いました。また、十一月六日には漱石に関連する諸団体の共催で偲ぶ会が行われ、村田由美草枕交流館館長がお別れの言葉を述べました。



中村青史先生を偲ぶ会



水俣研修旅行で講演される中村先生 2014



2011 漱石の孫 松岡陽子マックレインさんと



草枕ファン倶楽部発会式 2006



草枕美術展審査 2003



草枕ファンの集い 2022



捕り物作家納言恭平展記念講演会 2012



新才能「草枕」を語る 2007

# 中村青史先生の「提言」を心に刻んで 『草枕』文化の拠点づくり

村田 由美

中村先生が玉名市草枕交流館の初代館長に就任されたのは、平成一九年四月のことだ。交流館は、その前年、平成一八年四月に『草枕』発表一〇〇周年を記念してオープンしていた。交流館の友の会ともいうべき「草枕ファン倶楽部」が結成されたのが同一月。館長就任に当たって、「草枕ファン倶楽部」の会報『春星』に、倶楽部の意義を行政に代わって、個人個人が力を出し合って文化を守って行くことにある、と述べ、交流館が単なる「箱」に終わらぬような「内容の充実こそ来館者の関心を誘う」と書いておられる。しかし、中村先生と「草枕の里」小天とのつながりは、館長就任よりもっと早くからあった。天水町がまだ、玉名市と合併する以前、旧天水町時代の平成元年、「草枕の里」として町おこしをしようとして、「ふるさと創生事業」の一億円で漱石館を買収しようとしたがかなわなかったため、基金化し、その一部で『草枕の里を彩った人々』を刊行した。この執筆に先生は携わっておられる。さらに平成七年、天水町と県立美術館などの共催で開催された「草枕絵巻展」に伴い、図録『漱石の見た美と草枕絵巻展』を天水町で刊行したが、この執筆にも加わられた。草枕体験ウォークが始まったのもこの年である。また、小天では、平成九年に『草枕』の読後イメージを絵で表現してもらおうと「草枕美術展」の公募を隔年で始めた。中村先生は、その審査員も画家の宮崎静夫氏らとともに引き受けた。この美術展は第一回「草枕美術展 FINAL」（平成二八年）まで二〇年間続いた。さらに平成一四年、漱石館整備計画が始まり、研究委員会が発足した。その研究委員長が中村先生だった。現在、復元保存されているのは、旧前田家別邸の湯殿と、漱石が宿泊した漱石館のみだが、本来、前田家別邸全体を復元するという計画だった。委員会では、本館を復元できたら、そこをどのように活用するか、様々な意見が飛び交い、夢が膨らんだ。しかし、「この華やかで未来に想いを感じさせる素晴らしい企画は、すでに杭打ちの段階まで来て土地問題がこじれて幻と消えた」（中村青史「提言一つ」、『春星』No.19）。代替地を得てきたのが「草枕交流館」である。その初代館長に就任され、平成二四年三月まで、五年間館長を務められたが、前述したように小天との関わりは平成元年から始まっている。館長就任後、精力的に地元の文学者、文化人に光を当てられた。地元天水の納言恭平、藤島一虎をはじめ玉名圏の文学者を紹介する展示会「漱石と玉名の文学展」を企画。近代文学館に自ら足を運び資料を借り出された。その後、納言恭平の遺族から自筆原稿などを含めほとんどの遺品資料を寄贈されることとなる。

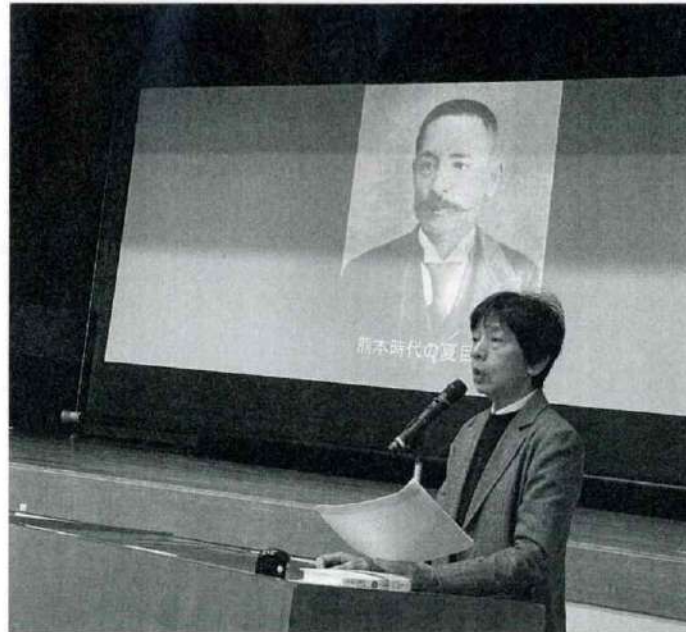
また、平成一七年に国立劇場で野村萬斎らによって上演された新作能『草枕』を、ぜひ熊本県立劇場で再演してほしいと、交流館でトークショーを行ない、自ら法政大文学部研究所と掛け合ってそのビデオを入手された。県立劇場にも働きかけたが、同作は一回限りの演目として行なわれたもので、地方での再演は無理との結論で断念せざるを得なかった。漱石が宿泊した前田家別邸の当主・前田案山子を近代文化功労者として表彰すべく、推薦書や功績書を執筆された。死後一〇〇年以上経て、このような光が当てられたのは先生の功績というほかない。先生は忘れ去られようとする人々に光を当て、その地に輩出したすぐれた人々を「地元」が中心となって顕彰し続けることを提唱された。館長辞任後も、中村先生はいわば「最高顧問」として草枕交流館の様々な行事に参加され、講演を行ない、『春星』に文章を寄せられた。忘れられないのは、漱石が小天まで歩いた道を体験しようとして『草枕』の旅体験ウォーク完全版が初めて行なわれた平成二七年のことだ。漱石の大江旧居跡に集まって、そこから小天までおよそ二四キロ近くを歩くという企画だったが、先生は、早朝にもかかわらず、颯爽とやって来られた。その頃、先生は心臓を悪くされ、いろいろとドクターストップがかかっていた。せめて熊本市内くらい、歩けるところまで歩きたいという思いだったのだろうが、当時の副館長だった小山芳弘氏も私も、「危ないのでやめてください」とお止めしたが、その時の淋しそうな表情が今も忘れられない。交流館の職員にはいつも「あーたたちが頑張ってくれるけんよか」とねぎらいの言葉を忘れない方だった。宴席で、興に乗って囲炉裏の炭でちよいと髯を描き、高らかにロシア民謡を歌われた姿が忘れられないと、職員の山本氏が語ってくれた。館長時代は草枕ウォーキングにも参加され、一三キロのコースを歩いておられた。交流館に来られると、よく小さなスケッチブックに絵を描かれていたという。全く偉ぶるところのない、チャーミングな方だった。

昨年、令和四年八月二七日に開催された「草枕ファンの集い」にも参加していたとき、トークショーでも発言された。『春星』19号に寄せられた「提言一つ」が最後の寄稿となったが、そこで友の会である「草枕ファン倶楽部」について、動きにくい「公的な施設」に代わって動く「友の会」としての重要性を改めて述べておられる。「創業の精神を共有する人物がそう長く生きるはずはない。そうであるならば、今のうちにファン倶楽部の足腰を強くしておく必要がある。そのためには、役割分担等を含めた組織化と研修の定期化を設けること」を提言された。もはや頼るべき先生はおられない。残された私たちは、この先生の提言を胸に刻み、草枕交流館を拠点として、漱石が『草枕』に桃源郷と思い描いたその魅力をいつまでも誇れる文化遺産として守り、磨き上げ、そして発信していかなばならぬ。（『KUMAMOTO』より転載）

# 「草枕」と玉名人講演会

漱石と玉名  
前田家と横島・池辺家

草枕交流館長 村田由美



玉名市と文豪夏目漱石との関わりを学ぶ講演会がR6年1月20日、市文化センターであった。市草枕交流館の村田由美館長が、小説「草枕」の舞台となった天水町小天への思いや玉名ゆかりの人物とのエピソードを披露し、約50人が興味深く聴いた。村田館長は、ロンドン留学中の漱石が友人に宛てた手紙で小天旅行に触れたことや、自筆水彩画「わが墓」の構図が、漱石を別邸に泊めた地元の名家・前田家の墓から有明海を見下ろす景色に似ていると紹介。「漱石は小天の風景や人との出会いを懐かしく思っており、『草枕』は起稿からわずか2週間で書き上げた」と解説した。また、明治期に玉名市横島町で私塾を開いた池辺吉十郎の長男で、元東京朝日新聞主筆の池辺三山が漱石に入社を勧め、「職業作家としての道が開けた」と語った。講演会は、小説の愛好家で作る「草枕ファン倶楽部」と市教育委員会が初めて開いた。



(熊本日日新聞より)

講演後「漱石・『草枕』クイズ」が行われ、正解者には「草枕絵巻」絵葉書(5点セット)などが贈られた。

## 【漱石山房記念館で俳句フォト夏目漱石の旅展】



★新宿区と玉名市の協働展として11月3日から12月8日の期間、第7期(2022年度)の優秀作が展示されました。

## 【玉名市民図書館ロビーで俳句フォト展】



## 【草枕交流館に中村青史先生の絵画を展示】



「落日」

この作品は、草枕交流館初代館長故中村青史先生の作品で、中村静代様(熊本市)よりご寄贈いただきました。

普賢岳に沈む夕日の絵は夏目漱石が描いた「わが墓」と重なります。



「わが墓」



池辺三山

元治元年(1864) 2.5  
～明治45年(1912) 2.28  
ジャーナリスト、明治30年東京朝日の主筆、明治三大記者といわれる。夏目漱石の入社に尽力した。



前田案山子

文政11年(1828) 4.7  
～明治37年(1904) 7.20  
小天の名家前田家の当主第1回衆議院議員。『草枕』の「志保田の隠居」のモデル。

2023年10月27日 小天小俳句ウォークラリー開催

小天小学校と草枕交流館の共催で初めて開催しました「小天小俳句ウォークラリー」は小学生が小天地区を散策し、豊かな自然や歴史を題材に俳句をしたためるというものです。小天小の4～6年生66人が参加しました。夏目漱石は小天を訪れ前田家別邸に宿泊し、その体験を基に「草枕」を執筆しました。また漱石自身も俳人で、熊本で多くの俳句を詠んでいます。児童たちは小学校を出発して地域を廻り、前田家別邸や草枕交流館も訪問。一緒に歩いた草枕句会の講師で俳人の田島三間先生の助言を参考に、心に留まったことをメモし、俳句を作りました。



小天小から前田家別邸へ



草枕交流館で俳句を詠む



互選



体育館で吟行の結果を発表

(田島先生選句の小学生の俳句)  
 からすうりこづみの石に実つてる  
 かきの実にしづくぼたぼた水の音  
 熟してる太陽みたいなかきがある

2024年5月25日  
 令和6年度  
 草枕ファン倶楽部総会にて

草枕・植物研究会シンポジウム開催

草枕ファン倶楽部総会において会員の研究発表の場としてシンポジウムを開催しました。令和6年度は「草枕・植物研究会」と称して、熊本ベゴニアの会会長の小坪和博氏を迎えて、草枕交流館句会講師田島先生と村田館長を交えて、草枕に描かれている植物についてトークを行いました。今後、テーマを草枕と能、草枕と絵画、草枕と食等に設定して研究会を開催して行き、草枕ファン倶楽部の会員の幅を広げていきたいと計画しています。



	草枕絵巻	植物
1章 山路		・杉、桜、松 ・山椒 ・菖蒲の花 ・蒲公英 ・竜（海州明の詩）
2章 神の末裔		・山椒・桜 ・竹 ・菖蒲の花 ・茶、梅、紅葉 ・燈籠
3章 漁船場		・海菜 ・鯛 ・魚
4章 彩葉さんとの会談 (熊島の乙女)		・赤松 ・葛花(ススキ) ・竹、桐葉 ・蓮花、芍薬 ・苔
5章 床屋		・柳
6章 飯場		・水仙 ・菖蒲の花 ・梅
7章 茶店		・桂、茶、松、芭
8章 二階席		・木蘭(木蓮) ・紫陽花 ・薔薇 ・桜、松 ・梅
9章 彩葉さんとの会談 (船旅)		・竹
10章 歌が池		・梅、海棠 ・桐花 ・菖蒲 ・杉、梨、松
11章 観音寺		・霸王樹 ・木蓮 ・松、杉
12章 木瓜の花と野武士		・菖蒲 ・木瓜 ・燈籠 ・萩
13章 川船で俳句 集場へ		・柳 ・白桃 ・土筆 ・げんげん

草枕に描かれた植物

# 俳句フォト夏目漱石の旅 2023 第8期開催

☆第8期の作品は、前期8/31締切で募集、352点（創作部門112点、課題部門231点、高校生の部9点）の応募がありました。後期2/29締切で、423点（創作部門114点、課題部門262点、高校生の部47点）の応募がありました。前期・後期の作品の中から夏の創作部門のベースさんの作品が年間最優秀賞に選ばれました。

## 創作部門特選



ベース (東京都清瀬市)

「評」季語が活かされていて分かりやすく、広がりも動きもあり、句も写真も素晴らしい作品

第八回(二〇二三年度)  
俳句フォト夏目漱石の旅  
草枕大賞(年間最優秀賞)

## 課題部門入賞者

<p>【春2】野島の基屋公園から望む金峰山</p> <p><b>特選</b> 遥望西風普賢を背負ふ峠越え 入選 野邊や石積むだけの秘聖地 賞賛賞 春天に向かふ山や風光る ももあふ 千歳 奨励賞 山笑ふ道標祝ひの道山歌 加藤とま 香里</p>	<p>【春1】遠望のよな女小川のふか川</p> <p><b>特選</b> 果樹園のかくれんぼうや山笑う 入選 蜜蜂の小天の寝き風に乘る 賞賛賞 春雷村板廊までの眺しるべ 藤野浩 香里 奨励賞 ひた隠くあらと出くはす西の路 ももあふ 香里 賞賛賞 華枝春の道標に白き道 神宮又典 香里</p>
<p>【夏2】懐想した『内神井道高野庭』</p> <p><b>特選</b> 誰に似る寝顔寝相に田舎風 入選 多は畳てむし雑糞戸這ひにけり 賞賛賞 夕照や赤多の雨上道標売りも 香里 奨励賞 故郷の土間に色あり五月月 ももあふ 千歳 賞賛賞 水を打つ又雑糞餅の舞をかな 廣久 香里</p>	<p>【夏1】道標の別れの跡れと道石の句</p> <p><b>特選</b> 面影をしづかに結ぶ奴置香 入選 青時雨渡る谷みし道屋傾く 賞賛賞 道よがりの道にもあられ上道の月 安室あき 香里 奨励賞 結みさの目一人(道)道標の道 道標を 香里 賞賛賞 道標のまじりも道標の道標の道 小野道山 大分</p>
<p>【秋2】長瀬大塚境内の『三田神社』</p> <p><b>特選</b> うつし世のうつろふ心水の秋 入選 我輩の影を映すや秋の水 賞賛賞 文書の心道に出で情 三田 千歳 奨励賞 妻の道標静かに道標 廣久 香里 賞賛賞 道標を道標にみゆにけり 伊藤あやめ 香里 賞賛賞 道標や方を映すの道標 ありりて 香里</p>	<p>【秋1】道標の別れ (道標名所区)</p> <p><b>特選</b> 線杉を龍に変えゆく秋の夕 入選 龍に神木の影秋風揺む 入選 龍の背に跨る夢や小笠月 賞賛賞 林まじり道標と道標を映く 伊藤あやめ 香里 奨励賞 色空をえぬ松上色の道標 ありりて 香里 賞賛賞 色空をえぬ松上色の道標 ありりて 香里</p>
<p>【冬2】『櫻桃』の『新集』道標名所の節</p> <p><b>特選</b> 追善の卒塔婆の墨客お花 入選 「那美さんの魂よ春かれ」古香小香 賞賛賞 道標ならぬ道標と道標を映す 三田 千歳 奨励賞 道標に道標を映す道標 伊藤あやめ 香里 賞賛賞 道標に道標を映す道標 伊藤あやめ 香里 賞賛賞 道標に道標を映す道標 伊藤あやめ 香里 賞賛賞 道標に道標を映す道標 伊藤あやめ 香里</p>	<p>【冬1】道標 (道標名所区)</p> <p><b>特選</b> 雪の冬道標れ来る鏡 入選 雨が道標を濡す峠越え 入選 冬女の道とつとつと靴を踏み 賞賛賞 道標を映す道標を映す 小野道山 大分 奨励賞 井戸橋の道標と道標 伊藤あやめ 香里 賞賛賞 道標を映す道標を映す 伊藤あやめ 香里</p>



ベース (東京都清瀬市)

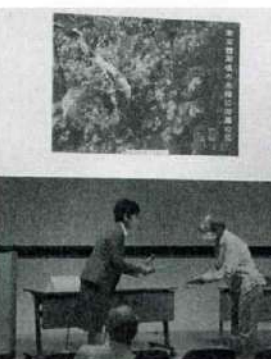
### 高校生(冬)俳句賞



武内 涼 (クラーク記念国際高校名古屋)



多田 檀 (大阪府高槻市)



令和6年度草枕ファン倶楽部総会にて、入賞者の表彰式が行われました。



多田 檀 (大阪府高槻市)

☆こちらのホームページで全応募作品を公開中  
<http://www.kusamakura.jp> 「漱石・草枕の里」 「俳句フォト夏目漱石の旅」

# 草枕ファン倶楽部 2024 年度事業計画

## ◎総会・記念講演会 (5月)

5月25日(土) 草枕交流館(実施済み)  
シンポジウム「草枕・植物研究会」  
パネラー/小坪和博氏・田島三間氏・村田由美館長

## ◎小天小俳句ウォークラリー (10月)

10月に実施予定。子供達が「草枕の里」で俳句を詠む。小天小と交流館の共催。

## ◎草枕句会 (毎月第2日曜日午後)

毎月第2日曜日午後(原則) 通年実施。  
田島三間先生を講師として定期活動を継続。

## ◎草枕史跡保存ボランティア作業

熊日緑のリボン賞受賞をきっかけに  
前年度より年2回実施

春(4月)の清掃:(4/20に実施済み)  
秋(10月)の清掃:(期日は後日ご案内)

## ◎草枕の旅 体験ウォーク (2024年度は2回の実施)

文化の日(11/3) 春分の日(3/20)

## ◎俳句フォト夏目漱石の旅 (9期目の公募)

〈前期(春夏)8/31締切・後期(秋冬)2/29締切〉  
高校生部門の継続。

## ◎その他

- ☆玉名市・新宿区の協働展  
「俳句フォト夏目漱石の旅」展  
漱石山房記念館(11月予定)
- ☆くまもと県民カレッジ「パレアミュージアム」  
村田館長が講演者として参加(1回)
- ☆「春星」21号の発行(本紙)



「草枕」史跡保存ボランティア作業



E-bikeで巡る歴史回廊「みかん山コース」

2023年初開催しました!

**E-bikeで巡る歴史回廊**

みかん山コース(約20Km)

干拓堤防コース(約25Km)

電動アシスト自転車で玉名の文化史跡や日本遺産などを巡りました



☆2階に草枕に関する図書コーナーを開設



「草枕の旅」体験ウォーク



## ご寄付ご寄贈のお礼《2023年度》

### 《絵画》

『落日』作中村青史 中村静代様

### 《書籍》

月間『俳句界』5月号(文学の森) 永田満徳様

俳誌『火神』77号(令和5年春号) 火神の会 永田満徳様

『小天天宮 火の神祭り発祥のいわれ』(火の神祭り保存会) 濱崎光邦様

総合文化詩『KUMAMOTO No.30』(くまもと文化振興会) 緒方信行様

『永田 萌画集 たまゆら』(永田 萌) 澤井美穂様

『崖上のポニョ』(徳間アニメ絵本 宮崎駿) 森下修様(以下同様)

『風立ちぬ』(徳間アニメ絵本 宮崎駿)

『甲斐青萍 熊本町並画集』(伊藤重剛 編著)

『拝啓 漱石先生』(大岡信著)

26『世界文学全集 魔の山(1)』(トーマス・マン著)

27『世界文学全集 魔の山(2)』(トーマス・マン著)

『日本文学全集 夏目漱石集(一)』(集英社)

『漱石と植物』(古川久著)

まんが『四賢婦人物話』(齊藤輝代著)

『草枕の探訪 - その自然・社会・人物 -』(島為男著) 他

## 草枕絵巻絵葉書

草枕絵巻が絵葉書になりました。

- ◇ 蜜柑山の見晴らし
- ◇ 馬上の花嫁
- ◇ 峠の茶屋
- ◇ 那古井の温泉場
- ◇ 湯煙りの女の5枚セットです。

500円(税込み)

